

エコアクション21

2023年度 環境経営レポート

発行日:2024年7月1日

取組対象期間:2023年4月1日～2024年3月31日



秋山商事株式会社

目次

1.	環境経営方針.....	1
2.	会社概要.....	2
3.	エコアクション21組織図.....	6
4.	秋山商事(株)の古紙リサイクルの業務フロー.....	7
5.	環境への負荷状況.....	1 1
6.	①環境経営目標.....	1 3
	②環境経営目標の実績.....	1 4
7.	主要な環境経営計画の内容と取組結果の評価、 次年度の対応策	1 5
8.	2023年度・環境関連法規への違反(遵守評価結果)、 訴訟等の有無	1 7
9.	2023年度・代表者による見直し・指示.....	1 7

1. 環境経営方針

企業理念

当社は企業活動すべてにおいて、地球温暖化を防ぎ、それに伴う暮らしの豊かさ、地球の豊かさに貢献します。

環境経営方針

- ① 環境経営マネジメントシステムを構築し、次の事項を重点的なテーマとして取り組みます。
1. 二酸化炭素排出量の削減
 - 1) 電気使用量の削減
 - 2) 軽油使用量の削減
 2. 水使用量の削減
 3. 廃棄物排出量の低減
- ② 環境保全に関する取組の評価、見直しを定期的に行い、環境マネジメントシステムの継続的改善に努めます。
- ③ 環境関連法規制と当社が参加した協定を遵守します。
- ④ 社会的な温暖化防止に貢献するため、行政機関・団体などと環境保全施策に協力するとともに、取引先や地域社会へ廃棄物削減方法の啓発活動を図ります。
- ⑤ 従業員に対し、環境に関する教育を計画的に実施し、環境経営方針を周知するとともに環境問題への意識向上を図ります。

これらについて、継続的に取り組むことを誓います。

制定 2008年12月22日

改定 2020年 3月31日

秋山商事株式会社

代表取締役社長

秋山 正敏

2. 会社概要

(1) 事業者名及び代表者名

秋山商事株式会社

代表取締役社長 秋山 正敏

(2) 所在地

本社及び第一倉庫 福岡県八女市柳島 1 5 4

第二倉庫 福岡県八女市柳島 5 9 - 1

(3) 環境管理責任者氏名・連絡先

環境管理責任者 中村 友則

連絡先 電話： 0 9 4 3 - 2 2 - 2 6 0 2

FAX： 0 9 4 3 - 2 2 - 6 6 6 2

e-mail： akiyamashoji.tomonori@gmail.com

(4) 事業の概要(事業活動)

製紙原料卸販売業及び一般・産業廃棄物収集運搬業、産業廃棄物処分業(中間処理)

(5) 事業の規模

敷地面積 事務所 : 6 0 m²(床面積)

本社及び第一倉庫 : 4 8 0 0 m²

第二倉庫 : 1 7 7 m²(床面積)

(6) 法人設立年月日

1 9 7 1 年(昭和 4 2 年) 4 月 1 日

(7) 資本金

1, 0 0 0 万円

(8) 売上高

1 1, 6 2 6 万円

(9) エコアクション 2 1 認証・登録の対象範囲

全組織・全活動

(10) 許可の内容

①廃棄物再生

都道府県 及び市	許可年月日	登録番号	廃棄物の再生に かかる事業の内容	備考
福岡県	1996年4月22日	第25号	古紙の再生 (選別、梱包)	

②産業廃棄物収集運搬／一般廃棄物収集運搬

都道府県 及び市	積換え保管有 無 有り：－ 無し：○	許可年月日 有効期限年月日	許可番号	許可品目	
福岡県	○	2023年 9月21日から 2028年 9月20日	4000055982	産業廃棄物 廃プラ類、金属くず、紙くず、 木くず、繊維くず、ガラスくず	
八女市	○	2024年 4月1日から 2026年 3月31日	第6号	一般廃棄物 (事業系可燃性ごみ)	<許可車両> 久留米 800 さ 8517 久留米 800 さ 7448 久留米 800 さ 6871

③産業廃棄物処分業

都道府県及び市	許可年月日・有効期限	許可番号
福岡県	2021年6月27日～2026年6月26日	4020055982

事業範囲			処理能力 (1日：8時間)
区分	処理方式	産業廃棄物の種類	
中間処理	圧縮梱包	廃プラスチック類 (自動車等破砕物を除き、軟質 系廃プラスチック類に限る) 紙くず 繊維くず 金属くず (自動車等破砕物を除く)	<設置場所> 福岡県八女市柳島字下川原5 4－2 <設置年月日> 1995年9月21日 <処理能力> 廃プラスチック類 100t/日 紙くず 99t/日 繊維くず 52t/日 金属くず 160t/日
	熔融固化	廃発泡スチロール類 (廃発泡スチロールに限る。)	<設置場所> 福岡県八女市柳島字下川原5 4－2 <設置年月日> 2012年3月30日 <処理能力> 廃プラスチック類 0.0186t/日

(11)計量証明事業登録番号

都道府県及び市	登録年月日	登録番号	種別	備考
福岡県	2004年6月11日	第245号	質量	

(12)資源再生事業の規模、施設等の状況

・従業員数 15名

・ 主要設備

種類	能力	台数	備考
古紙プレス機 (ラージベール)	メインシリンダ出力 1 1 3 t (100馬力)	1	
トラックスケール (電気抵抗線式はかり)	4 0 0 0 kg	1	
発泡スチロール減容機	2 0 kg/H	1	

・ 運搬車両・作業車両

種類	積載能力	台数	備考
平ボディ車	1 5 t(最大積載能力)	1	
平ボディ車	8 t	1	
平ボディ車	5 t	1	
平ボディ車	3 t	1	
平ボディ車	2 t	2	
パッカー車	4 t	3	
パッカー車	3 t	1	
アームロール車	4 t	1	
フォークリフト	2 t	2	
バケットリフト	3 t	1	電気リフト
クランプリフト	4 t	1	

・処理実績(2023年度)

種類	処理分類	収集運搬(t)	中間処理(t)
専ら物 その他 (再生資源回収・収集等)	古紙類	4961.9	4961.9
	古布	47.5	47.5
	金属	21.6	21.6
	ビン	9.4	9.4
	その他 (プラスチック類)	45.2	45.2
産業廃棄物	廃プラスチック類等	15.7	15.8
事業系一般廃棄物	可燃類	14.4	0.0
計		5,115.7	5,101.4

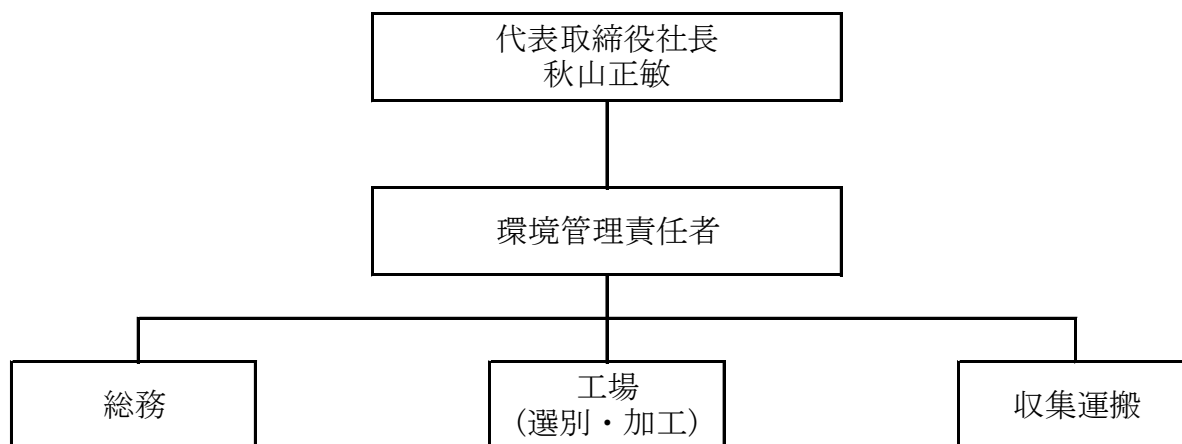
(13)事業計画の概要

製紙原料卸販売を中心に計画している。

(14)事業年度

4月～翌年3月

3. エコアクション21組織図



役割及び責任・権限表

社長	①	環境経営方針を定め誓約する
	②	環境管理責任者を任命し環境経営システム全体の運用について責任及び権限を与える。
	③	E A 2 1 の取組に必要な教育訓練計画を承認する。
	④	E A 2 1 全体の評価と見直しを実施する。
	⑤	経営における課題とチャンスを整理し、明確にする。
環境管理責任者	①	環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックを行い取組対象とすべき環境負荷を特定する。
	②	環境経営目標及び環境経営計画を承認する。
	③	環境経営システムでの各自の役割、責任及び権限を全社員に周知する。
	④	EA21の取組に必要な教育訓練計画を策定する。
	⑤	環境経営レポートを作成し、公表する。
	⑥	外部からの環境に関する苦情や要望を受け付け必要な対応をする。
	⑦	環境上の緊急事態を特定し対応策を定める。
	⑧	環境経営目標の達成状況及び環境経営計画の実施状況を確認・評価する。
	⑨	環境経営システムの運用に問題がある時は是正処置・予防処置を実施する。
総務責任者	①	関連する環境法規制等を取りまとめる。
	②	法規制の順守評価を行う。
	③	環境経営計画を策定する。
	④	環境経営システムに必要な文書（記録を含む）を保管管理する。
工場責任者	①	環境経営計画を策定する。
	②	工場作業員へ環境経営計画の手段・方法を伝える。
収集運搬責任者	①	環境経営計画を策定する。
	②	ドライバーへ環境経営計画の手段・方法を伝える。
全従業員	①	環境経営計画の手段や方法を実施するのはもちろんのこと、環境負荷を軽減する事業活動への取組に積極的に参加する。

4. 秋山商事株式会社の古紙リサイクル業務フロー

● 製紙原料

- ・段ボール・新聞紙・雑誌・オフィス古紙類の回収
- ・PTA・婦人会・子ども会の集団回収

● 一般廃棄物収集・運搬

- ・飲食店・スーパーの生ごみ・粗大ごみ
- ・引越しごみ等
- ・ビン・缶・ペットボトルなどの資源ごみ等

● 産業廃棄物収集・運搬

- ・紙くず・廃プラスチック・金属くず・その他



古紙はさまざまなところから発生します。印刷・製本工場や新聞社などからは裁ち落としや損紙残紙などが、デパートやスーパーからは段ボールが大量に出ます。

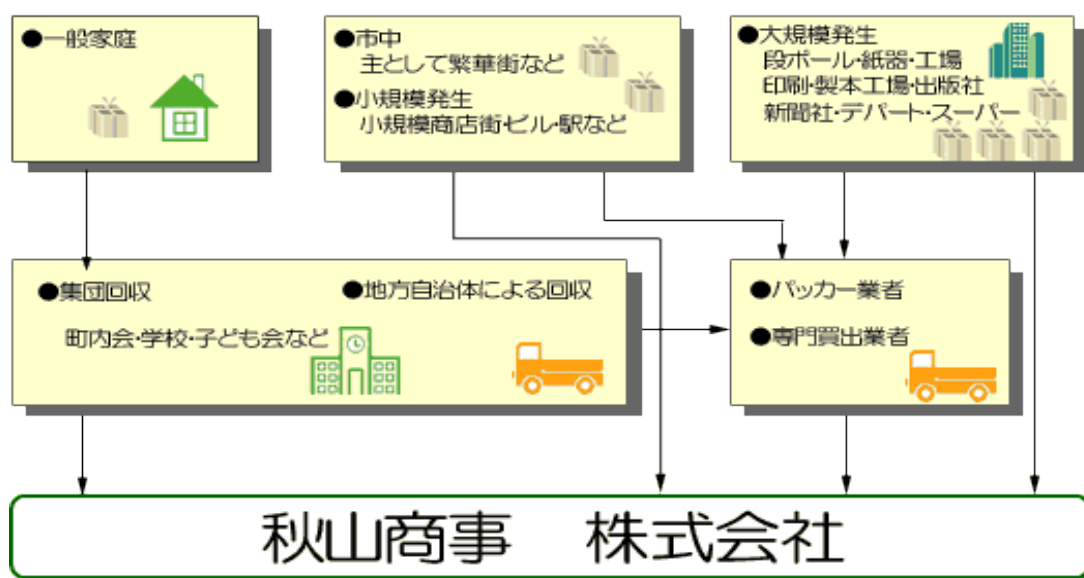
古紙が大量に出る場所からは主に坪上業者や専門買取人が回収し、いったんは直納業者に送られます。また、直納業者が直接回収するケースもあります。

家庭からの古紙は、事業者による回収、集団回収、地方自治体による直接回収によって集められ、直納業者におくられます。

近年、こういった従来の回収ルートとは別に、牛乳パックやオフィス古紙の回収も積極的に行われるようになっていきます。

さまざまなルート通じて集められた古紙は、直納業者によって梱包機でプレスされ、1トンほどの大きさでまとめられています。その後ワイヤーがけされ、製紙メーカーへと運ばれて、再び紙に生まれ変わります。

◆ 古紙の主な回収経路・流通経路



様々なルートで回収された古紙をもとに、リサイクルをスタートさせます。

古紙の受入から選別・加工、製紙メーカーへの搬入まで、すべて自社で管理し、機密古紙もメーカーでの溶解まで責任を持ってリサイクルしております。



<1>古紙の受け入れ
段ボール・新聞・雑誌など、品種毎に計量し、受入しています。



<2>ストックヤード
回収された古紙は、種類別に荷降ろしされ、ストックヤードで一旦保管されます。



<3>リサイクルスタート
保管されていた古紙は、ストックヤードから選別ラインに搬入されます。



<4>古紙の選別
古紙は、洋紙、板紙などの原料として選別し最終的に手作業で禁忌品を取り除きます。



<5>プレス加工
選別された古紙は、輸送、保管の効率を高めるためプレス（圧縮）されます。



<6>保管
プレス加工された古紙は、一時的に倉庫に保管されます。



<7>安定供給
倉庫に保管された古紙は製紙メーカーの需要に応じて出荷されます
安定供給の為、1,500 t の古紙をストックできます。



<8>搬送準備
プレスされた古紙は、各メーカーに搬送されます。
そして、印刷用紙、トイレットペーパー、段ボール、新聞紙などに生まれ変わります。

● 金属、プラスチック類のリサイクル

アルミや鉄などの金属類、ペットボトルやプラスチック類も紙類と同様に選別→プレス加工→保管を行い、各業者へ搬送しています。



・プレスしたアルミ缶



・プレス加工したプラスチック類

● 発泡スチロールのリサイクル



・回収された発泡スチロール



・発泡スチロール減容機

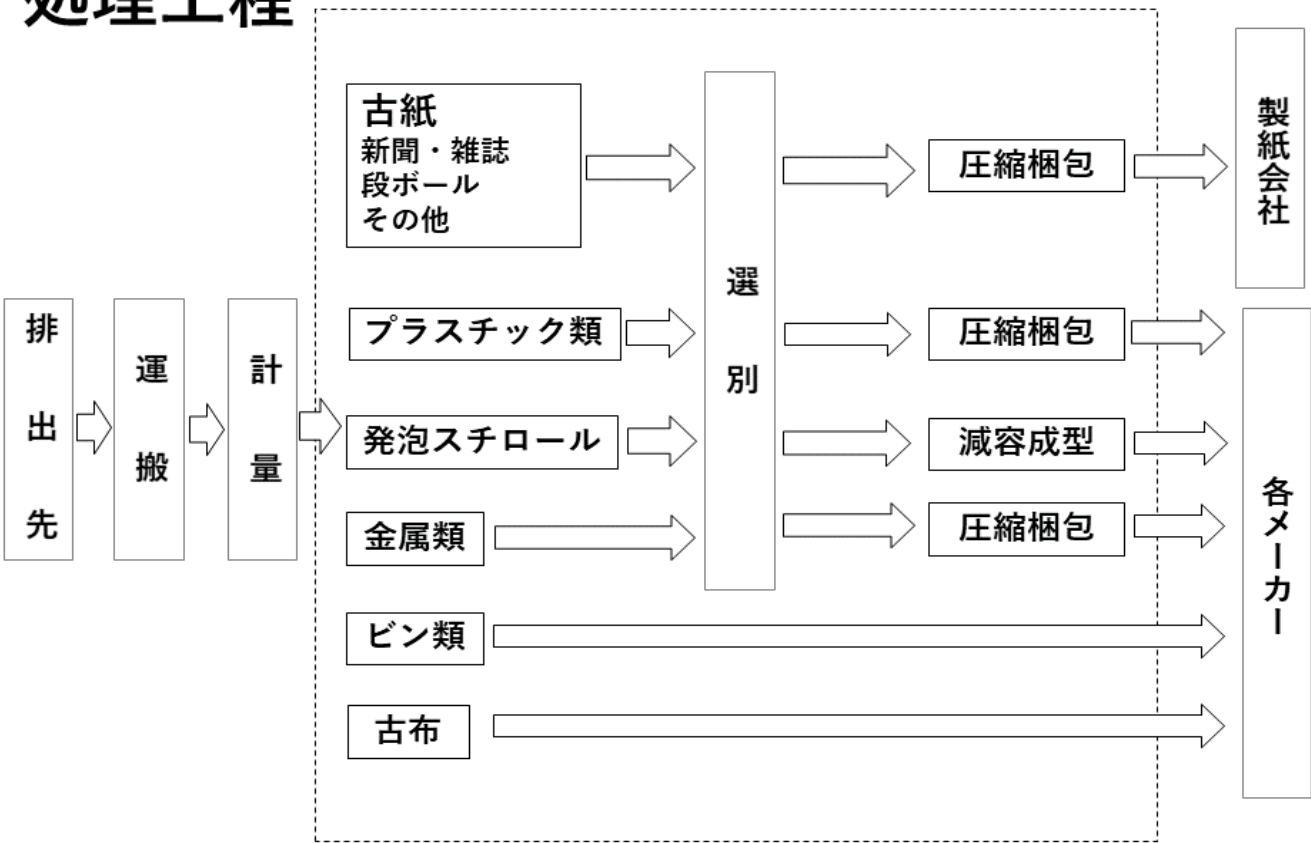
発泡スチロールはそのままと、軽く、場所を取るため運搬が困難です。

そのため専用の減容器に投入し、高温で溶かします。



溶かした発泡スチロールは型に入れ冷やして固め、インゴット状にされ、出荷されます。

処理工程



5. 環境への負荷状況

(1) 当社における過去3年間の負荷実績

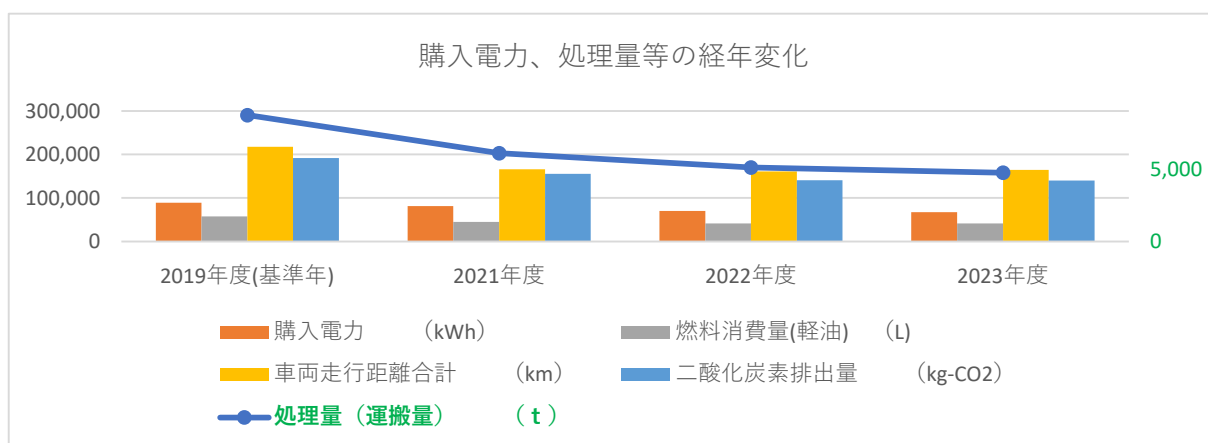
項目	単位	2021年度 (2021/4～2022/3)	2022年度 (2022/4～2023/3)	2023年度 (2023/4～2024/3)
処理量(収集運搬量)	t	6,088.9	5,115.7	4,743.2
		前年対比	84.02%	92.72%
		前々年対比	—	77.90%
購入電力	kWh	81,429	69,964	67,586
		前年対比	85.92%	96.60%
		前々年対比	—	83.00%
処理量当り購入電力	kWh /t	13.37	13.68	14.25
		前年対比	102.27%	104.19%
		前々年対比	—	106.55%
燃料消費量(軽油)	L	45,124	41,536	41,887
		前年対比	92.05%	100.84%
		前々年対比	—	92.83%
処理量当り消費燃料 (軽油)	L/t	7.41	8.12	8.83
		前年対比	100.61%	108.76%
		前々年対比	—	119.16%
車両走行距離合計	km	166,159	161,087	164,450
		前年対比	96.95%	102.09%
		前々年対比	—	98.97%
燃費	km/ L	3.68	3.88	3.93
		前年対比	105.32%	101.23%
		前々年対比	—	106.62%
処理量当り走行距離	km/t	27.29	31.49	34.67
		前年対比	115.39%	110.10%
		前々年対比	—	127.05%
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	155,425	140,675	140,442
		前年対比	90.51%	99.83%
		前々年対比	—	90.36%
処理量当り 二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ /t	24.07	27.50	29.61
		前年対比	114.24%	107.67%
		前々年対比	—	123.01%
会社から排出された 一般廃棄物量	t	2.9	2.3	2.2
		前年対比	77.66%	97.79%
		前々年対比	—	75.95%
水資源投入量	m ³	115	108	91

電気量のCO₂排出係数は調整後の排出係数0.479(kg-CO₂/kWh)(2020年度九州電力)

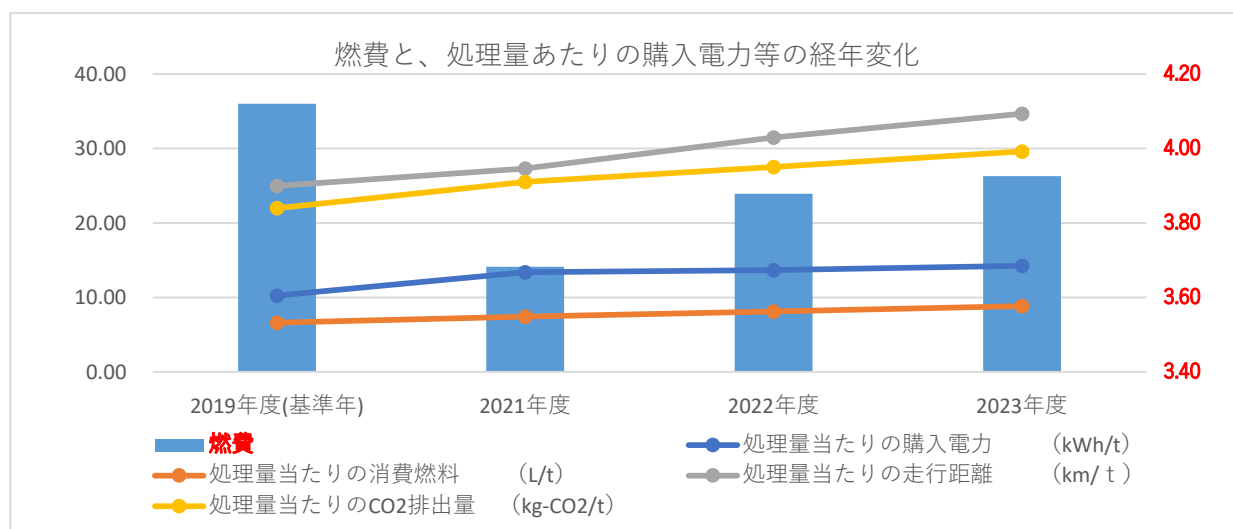
2) 評価・考察

前年同様、軽油使用量、走行距離は前年度とほとんど変わらないが、処理量(収集運搬量)が減っている。
前年度から今年度に描けて業務の内容は大きく変わらないため、各排出先の排出量が減っているのが影響していると思われる。
使用した電力量が前年度ほぼ横ばい。これは前年度より実施していた梱包用のプレス機、リフトを集中的に動かしていたことが要因だと考えられる。これも収集量が減ったため、これまでは漫然と動かしていたものが、集中的に作業ができるようになったことの副産物であるが、集中的にやることはエネルギー使用量の現象には有効なため、これは継続していきたい。
CO₂排出量は減少しているが、処理量が減ってしまっているため処理量ベースでみるとそれぞれ上昇してしまっている。
それぞれの排出量も減少傾向で改善がみられないため、減った処理量に比例して、活動量を落とすことができない、このため前年以上に効率の悪い稼働をせざるを得ないのが原因だと思われる。

項目	2019年度(基準年)	2021年度	2022年度	2023年度
処理量(運搬量) (t)	8,725	6,089	5,116	4,743
購入電力 (kWh)	89,431	81,429	69,964	67,586
燃料消費量(軽油) (L)	57,714	45,124	41,536	41,887
車両走行距離合計 (km)	217,870	166,159	161,087	164,450
二酸化炭素排出量 (kg-CO2)	191,738	155,425	140,675	140,442



項目	2019年度(基準年)	2021年度	2022年度	2023年度
処理量当たりの購入電力 (kWh/t)	10.25	13.37	13.68	14.25
処理量当たりの消費燃料 (L/t)	6.61	7.41	8.12	8.83
処理量当たりの走行距離 (km/t)	24.97	27.29	31.49	34.67
処理量当たりのCO2排出量 (kg-CO2/t)	21.98	25.53	27.50	29.61
燃費	4.12	3.68	3.88	3.93



6. ①環境経営目標

環境経営目標	単位	基準年 2019年度	短期目標	中期目標		
			2023年度 排出量：基 準年の0.5% 削減	2024年度 排出量：基 準年の1%削減	2025年度 排出量：基 準年の1.5%削減	2026年度 排出量：基 準年の2% 削減
1. 二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	187,522	186,584	185,647	184,709	183,772
処理量当たりの二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ /t	21.49	21.4	21.4	21.4	21.4
(1) 電気使用量	kWh	89,431	88,984	88,537	88,090	87,642
処理量当たりの電気使用量	kWh/t	10.25	10.2	10.2	10.2	10.2
(2) 軽油使用量	L	57,714	57,425	57,137	56,848	56,560
処理量当たりの軽油使用量	L/t	6.61	6.6	6.6	6.6	6.6
2. 廃棄物排出量の低減						
一般廃棄物排出量	t	3.1	3.1	3.1	3.1	3.0
産業廃棄物排出量	t	1.82	1.81	1.80	1.79	1.78
3. 水使用量	m ³	103	102	102	101	101
処理量当たりの水使用量	m ³ /t	0.012	0.012	0.012	0.012	0.012
4. 環境配慮						
再生資源回収のための リサイクル方法の啓発	回数	6	10	10	10	10
処理量（収集運搬量）	t	8,725	-	-	-	-

備考

各年度の期間：4月から翌年3月

電気使用量、軽油使用量及び水使用量の目標値は、処理量あたりの原単位により設定した（目標原単位は固定）。

購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.479kg-CO₂/kWh（九州電力 2020年度・調整後）を使用した。

②環境経営目標の実績

環境経営目標	単位	基準年 2019年度	目標値	実績値	対目標比 (実績/目標)	評価	
			2023年度 排出量:基準 年の0.5%削 減	2023年度			
1. 二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	187,522	186,584	140,442	75.3%	○	CO2排出量は、活動量の減少に伴い減少。ただし処理量が少なかったため、処理量当たりの排出量は増加した
処理量当たりの二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ /t	21.49	21.4	29.6	138.4%	×	
(1) 電気使用量	kWh	89,431	88,984	67,586	76.0%	○	電気使用量は減少したが、処理量当りの電気使用量は増加。
処理量当たりの電気使用量	kWh/t	10.25	10.2	14.2	139.7%	×	
(2) 軽油使用量	L	57,714	57,425	41,887	72.9%	○	軽油消費量は減少したが、処理量当たりの燃料使用量は増加。
処理量当たりの軽油使用量	L/t	6.61	6.6	8.8	133.8%	×	
2. 廃棄物排出量の低減							
一般廃棄物排出量	t	3.1	3.1	2.2	71.6%	○	会社から排出される一般廃棄物量は減少傾向。
産業廃棄物排出量	t	1.82	1.81	21.28	1175.1%	○	貯まっていたもの、売却予定だったものをまとめて処理した。
3. 水使用量	m ³	103	102	91	88.8%	×	前年度よりは使用量は減ったが、目標の達成は出来なかった。
処理量当たりの水使用量	m ³ /t	0.012	0.012	0.019	159.9%	×	
4. 環境配慮	回	6	10	7	70.0%	－	前年度より回収先で時間が取れないことが多く啓発の目標値は達成できなかった
再生資源回収のためのリサイクル方法の啓発							
処理量（収集運搬量）	t	8,725	－	4,743	処理量は 基準年比(2023/2019年)=0.54 前年度比(2023/2022年)=0.93		

備考

各年度の期間：4月から翌年3月

電気使用量、軽油使用量及び水使用量の目標値は、処理量あたりの原単位により設定した。

購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.479kg-CO₂/kWh（九州電力 2020年度・調整後）を使用した。

基準年を2019年としているが産業廃棄物排出量は2020年度の数値を基準とする

7. 主要な環境経営計画の内容と取組結果の評価、次年度の対応策

取り組み内容と結果

環境目標項目	主な取組の内容	取組結果	評価
電気使用量の削減	冷暖房設定温度の遵守（冷房 27 度以上、暖房 21 度以下）	冷房26度以上の設定を励行している。気象状況は相変わらず気温が高いので熱中症対策の為、休憩室の設定が夏場は24度程となっている。	△
	退室時消灯、不要時の電源 off	徹底できている	○
	選別ライン・ベアラー不使用時の電源 off	ベアラーの点検は励行されている。 選別ライン、ベアラー、発泡スチロール減容処理機の電源offはできている。	○ ○ ○
	デマンド方式の活用	電力の消費に活用している。	○
軽油消費量の削減	始業前点検、定期点検の確実な実施	車両の定期点検はきちんと実施している。 日常点検(月1回)は定着している。	○
	経済運転の徹底	急発進・急停車は意識されている。アイドリングストップの実施されていない。	△
	電動リフトの運用	バッテリー式の電動リフトを運用出来ている。	○
水使用量の削減	こまめな蛇口の開閉	よく守られている。	○
	節水の徹底	水道の大本を絞っている。	○
廃棄物の発生量の低減	回収物の分別・リサイクルの徹底	よく守られている。	○
	コピー済みの裏紙使用の徹底	裏紙利用が徹底されている	○
	一般廃棄物排出量・資源ゴミ回収量のデータ収集	データ収集はきちんと管理されている	○
環境配慮	古紙納入用の木製パレットの再利用の推進	週毎に数パレット程納入あり ほとんど再利用のため回収依頼をしているが今年度は貯めていた使用できないパレットを処分した。	△
	車両整備（オイル交換）の徹底による排ガス清浄化	定期的にオイル交換実施。	○
	取引先や地域社会へ廃棄物削減方法の啓発活動	集団回収時のため回収品目の分別一覧の作成 取引先への分別のお願い	○

※取組期間 2023年4月～2024年3月

〔評価方法〕 ○:良好 △:不十分 ×:未実施

次年度(2023年度)の環境経営計画

環境目標項目	主な取組の内容	次年度(2022年度)の対応策
電気使用量の削減	冷暖房設定温度の遵守（冷房 27 度以上、暖房 21 度以下）	エアコンの新規購入を考える。休憩室に人がいないときは、設定温度を27度に設定する（継続）。
	退室時消灯、不要時の電源 off	今後も引き続き実施。
	選別ライン・ベアラー不使用時の電源 off	ベアラーの暖気運転を遅くとも7:50から開始する。こまめに運転処理状況を確認し、電源 off 実施を徹底する（デマンド目標56kwに設定）。
	デマンド方式の活用	今後も引き続き実施。
軽油消費量の削減	始業前点検、定期点検の確実な実施	定期点検(月間)を確実にするとともに、始業前点検の月間の重点点検項目（オイル、エアーチェック、グリスアップ、車内清掃、等）を決め確実に実施する（継続）。
	経済運転の徹底	毎月の燃費データをフィードバックし、意識を高める。回収ボックスの設置を進め、収集効率を高める。
	電動リフトの運用	他のリフトも更新時は電動への変更を考える。
水使用量の削減	こまめな蛇口の開閉	引き続き実施。
	節水の徹底	夏場の過剰な散水をやめる。飛散防止のための散水も控える。
廃棄物の発生量の低減	回収物の分別・リサイクルの徹底	リサイクル・分別の徹底。 発泡スチロールのリサイクルを促進する（継続）。
	コピー済みの裏紙使用の徹底	今後も引き続き実施。
	一般廃棄物排出量・資源ゴミ回収量のデータ収集	今後も引き続き実施。
環境配慮	古紙納入用の木製パレットの再利用の推進	木製パレットの再利用の維持(継続)。
	車両整備（オイル交換）の徹底による排ガス清浄化	今後も引き続き実施。
	取引先や地域社会へ廃棄物削減方法の啓発活動	より分かりやすい分別方法の指導により、廃棄物の削減につながるように活動する（継続）

8. 2023年度・環境関連法規への違反（順守評価結果）、訴訟等の有無

	当社に関する法規制	要求事項	違反有無
1	廃棄物処理法	許可事業者にて委託、許可証に更新、保管基準、管理表の管理・報告	遵守
2	騒音規制法	プレス機の届け出、作業時間遵守	遵守
3	消防法	施設の届け出、設備点検実施	遵守
4	労働安全衛生法	フォークリフトの免許・資格証の携帯	遵守
5	道路運送車両法	車両の整備・点検実施	遵守
6	道路交通法	運転免許の取得・携帯	遵守
7	浄化槽法	浄化槽の水質基準合格・点検清掃・記録保管	遵守
8	福岡県環境保全に関する条例	環境保全施策の理解・協力	実施
9	計量法	計量器の定期的な検査	実施
10	フロン排出抑制法	業務用エアコン、スポットクーラーの定期的な検査（3カ月に1回）	実施

- ・環境関連法規への違反、訴訟はありません。
- ・関係当局よりの違反等の指摘・指導は過去8年間ありません。
- ・産業廃棄物処分業許可証(福岡県)は更新済み(令和8年6月26日まで)。

9. 2023年度・代表者による見直し・指示

環境活動の取組への評価

2023年度に入り、ほぼコロナ前と同じ数の地域や学校などの集団回収のは行われてきたものの、各排出先から出る資源の量は目に見えて減ってきている。理由として、各地域に設置されている無料の古紙回収ボックスの増加が考えられる。古紙回収業という業務自体がリサイクル活動の第一歩となるため、リサイクル活動が活発になるのは歓迎すべきことだが、それが弊社の古紙原料の減少とつながっていることも否めない。例年と比べて電気、軽油の消費量はほぼ横ばいではあったが、それを上回る処理量の減少により、処理量に対する二酸化炭素排出量は増えてしまった。

今後の対策

- ・電気の使用量に関しては、これまで一日中動かしていた機械をある程度決まった時間に集中的に動かすことで減少することができた。処理量が減ったことによって出来るようになったことではあるが、これまでは漫然と動かしていたものも集中してやることで効果が出るのが分かったので今後も継続していく。また、車輛の運行ルートなどもまだ効率的にできると思うので、これまで以上に効率的に車輛の運用を行っていく
- ・社会自体の変容は大きく、紙資源の排出は目に見えて減ってきている。今後も少量でも取引先の量を増やして補う必要がある。これまでと同じような古紙回収方法では環境負荷の改善は期待できない。仕入量を増やすためには、回収ボックスの設置、大量排出量の優良顧客の開拓、古紙以外のリサイクル品の回収などを考え、改善していく。
- ・今年度は貯まっていた繊維関係やこれまで売却できていたが今回からできなくなったプラスチック関係を産廃として処分したため、産廃の量が増えてしまった。今後はこれを基準に産廃量が少なくなるように考えていく。
- ・資源の回収量の現状は厳しい状況ではあるが、空いている時間が試行錯誤の時間であると考えを有効に使い、これまでと同じ水準の収取量を確保できるように考えていく。